

## 定例記者会見発言録

日 時：令和4年10月20日（木）14時～  
場 所：伊達市役所東棟4階 401・402 会議室  
出 席：市長、副市長、総務部長、未来政策部長、財務部長、産業部長  
報道機関：読売新聞福島支局、時事通信社福島支局、福島民報社、福島民友新聞社  
発表項目：市長から下記の内容について、別紙資料により説明

- 資料1 あなたもまちの宣伝マン！4代目「伊達な宣伝部長」を募集
- 資料2 「レンタサイクルDE伊達市を満喫キャンペーン」の実施
- 資料3 ふるさと納税クラウドファンディング事業の実施
- 資料4 令和4年度市政ふれあい懇談会の開催
- 資料5 起業セミナーの開催
- 資料6 被災市町村へ職員を派遣
- 資料7 県立伊達高等学校を応援します！！

《質疑応答》-----

### **ふるさと納税クラウドファンディング事業の実施**

#### **■活用事業及び返礼品について**

記 者 活用事業②の商品化事業についてだったのですが、こちらは民間事業者の開発を支援するという事なのか、市として開発するという事なのかどちらでしょうか。

市 長 民間事業者、または農家の方が自分で何か商品を開発して販売する。そういったものに対しての支援を考えております。基本的には民間事業者ということになります。

記 者 今現在、桃の新たな商品化をしたいという民間事業者から話とかはあるのですか。

市 長 実際の企業名はお話しできませんが、グミを作っている企業が進出してきておりますので、そういったところで、もし出来れば桃を使ったグミが商品化出来ないかという話がございます。

桃というのはなかなか生食で食べるのがおいしいのですが、それを商品化していくのがなかなか難しいので、そういったものを研究するための費用として実施をしたいというところに支援していきたいと思っています。

記 者 ①の部分の事業だったのですが、こちらは今でも鳥獣対策はやってらっしゃって強化するためというような意味合いになりますでしょうか。

市 長 今も実施をしております。ただ、なかなか予算の関係もありまして、すべてを支援することが出来ていないというのが現状でした。イノシシ、サルについても、今、サルが相当増えているということもあるので、具体的にはイノシシの電気柵、ワイヤーメッシュ柵、サルについては、テレメトリ装置を使って、ど

ういう生態、行動をしているのかを確認する。それによってどういった駆除の方法があるのかを確認していく。そういう予算の拡充に使っていきたいと思っています。

記者 目標金額を 6,000 万円にした内訳の理由とかそういったものを教えていただければと思います。

市長 今までも鳥獣害対策を実施してきたのですが、今までの予算ではすべての要望に応えられない。ですからすべての要望が実施できるものとして約 4,300 万円を計上しております。そして新たな商品につきましても、今応募されている、やりたいというところもございますので、事業者・個人への支援額として、またはパッケージ等の開発費用として 1,900 万円、合わせて 6,100 万円ということになりますけども、6,000 万円ということにしております。

記者 過去にクラウドファンディング事業について、市として行った事例はあるのでしょうか。

市長 初めてです。

記者 返礼品についてなんですが、募集が 1 月 27 日まで。いつ頃から返礼が始まるのでしょうか。

産業部長 返礼品については、ここでいう桃の定期便などは、生産時期に合わせての定期便ですので、桃が出荷される 6 月下旬から始まりますし、加工品であればそれに応じて寄附をいただいたのちに速やかに対応するという形になるかと思えます。

記者 定期便の期間としては半年というかそのくらいになるということでしょうか。

産業部長 そうですね。伊達市産の桃でいうと、6 月くらいから 10 月くらいまでありますので、その詰め合わせとして何回かに分けてということになります。